

(第3 欄(要約可))

「恵子さんの体におこがまったという情報があります」。今年2月、京都市の主婦(38)は電話で告げられた。前夫(48)が引き取った長男(10)と長女(7)が通う静岡県内の小学校の教諭からだった。前夫は結婚当初から家庭で敬語を使うよう強制し、ささいな失敗に激しく怒った。しつけにも厳しく、子どもも手を上げた。精神的に耐えられず離婚を決意。子どもは引き取るつもりだったが、長男が転校を嫌がった。前夫は子どもを喜ばせたいと懇願し「しかり方を改める。子どもは月1回会わせる」と約束したため、まかせることになった。

ところが前夫が約束を守ったのは最初の半年だけ。次第に面会に難色を示し、学校が長期休みの時しか会わせなくなってきた。この夏休み、1日だけ会えた長男は「お父さんにはおこがめられるけ

一人親 手を上げる前に

救え幼い命

児童虐待の現場から

⑥

ど、謝っておけば大丈夫。間違って調整するだけだから。また我慢できる」といっ。

と話した。前夫に「虐待」

虐待防止が活動目的の

一つで、「二人親はストレスがたまりやすい。手を上げてしまつ前に、もう一人の親にSOSを発信して」と呼び掛ける。

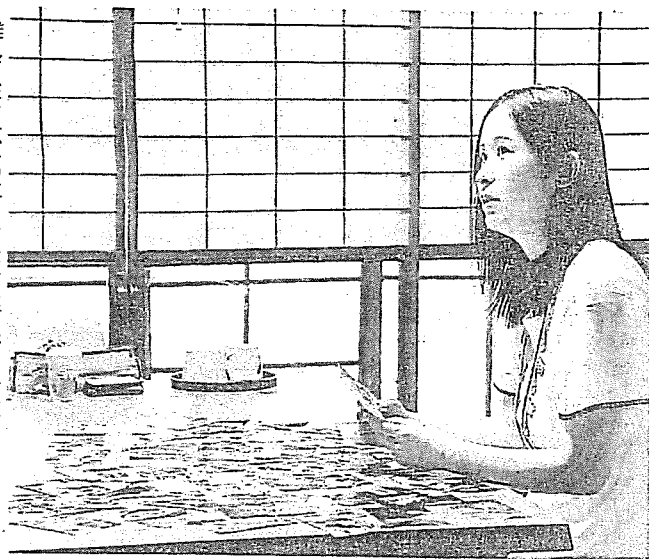
面会では親子でプールに入るなど、できるだけ子どもの体をチェックするも会っていいよ。奈良県

引き取れた。親権は得たが「子どもには母親の姿を知って育ってほしい」と、月1回以上、泊まり掛けで元妻に会わせている。今度、お母さんと会う時に着て行く服を買おう「たぐい元妻との面会を嫌がっていないと態度で示すようにしている。

離婚後も協力を

を問いただしたり、親権者変更を求めれば、逆上して子どもが更に危険になる気がする。「次に会えるのは冬休み」と涙をぬぐった。

7月初め、東京都内の公園で、幼い兄弟が小川の水を浴びて遊んでいた。2人を見守る両親のそばには、離婚後の親子の面会を仲介する「NPOびじゅと」(横浜市中区)の古市理奈理事長(39)がいた。離婚した夫婦の対立が激しいと、子どもの面会で協力できない



離れて住む子どもたちの写真を手にする女性

＝東京都内で、毎月見「報載

の会社員男性(39)は長女(10)と長男(5)にこう話している。離婚して子どもを喜ぶが父子家庭だ。元妻(37)は子どもに厳しくあつた。甘えてまわりつくとたいたたり、怒鳴ることも日常茶飯事。精神的に不安定で、約4年前、子どもを連れて家出した時、男性から離婚を申し入れた。親権を求めたが、家裁の審判で「子どもが幼い」と親権は元妻に。それから2年後、大阪高裁の判決で元妻の体罰などが問題視され、ようやく子どもを

児童虐待に関する皆さんの意見をお聞かせください。この連載に対する感想もお寄せください。メール o.shakaibu@mainichi.co.jp、ファクス06・6346・8187か、〒530-8251 毎日新聞社会部「児童虐待取材班」(住所不要)まで。

「行ってきます」。元氣よく母親の元に向かう子どもたち。近所からも「今とちい、近所のおっちゃん、おばちゃんとかんなにしゃべってくれる子はおらな」と可愛がられて